

2021年度研究助成金交付者決定

(研究助成の成果は来年刊行予定の「研究年報」に報告書を掲載する予定。)

長井 静世 滋賀医科大学医学部附属病院
小児科

山本 雅昭 神戸大学医学部附属病院
糖尿病・内分泌内科

◎ 自由課題研究

公募したところ(6月30日締切)、全国より19件の応募があり、審査の結果、次の10名に交付が決定、10月に交付。

荒木久美子 秋山成長クリニック

内田 登 慶應義塾大学医学部
小児科学教室

菊池 透 埼玉医科大学病院小児科

齋 秀二 手稲溪仁会病院小児科／
北海道大学遺伝子病制御研究所
分子生体防御分野

佐藤直子 たなか成長クリニック

菅沼信彦 名古屋学芸大学看護部

田口 朋 北里大学医学部
内分泌代謝内科学

塚田 信 女子栄養大学
栄養科学研究所

成長科学協会の小児疾患地区委員へのアンケート

2016年4月30日に文部科学省は、「座高の検査を必須項目から削除したことに伴い、児童生徒等の発育を評価する上で、身長曲線・体重曲線等を積極的に活用することが重要となること」という通知を出しました。それ以後、日本学校保健会で作成した「成長曲線作成プログラム」が全国の国公立小・中・高校に配布されて、成長障害のスクリーニングが開始されました。スクリーニングで、受診が必要と学校医に判断された児童・生徒は、専門医への受診を勧告することになっております。

成長科学協会では、全国の成長障害治療を行っている専門医の先生方に地区委員を委嘱しております。日本学校保健会の成長曲線普及推進委員会では、機会ある毎に専門医として、日本小児内分泌学会の評議員と成長科学協会の小児疾患の地区委員を挙げています。今回、地区委員の任期更新に伴って、小児疾患の地区委員に、学校医または養護教諭からの成長障害児の紹介があったかどうかのアンケートを回答してもらいました。

小児疾患の地区委員の約80%の220人が回答し、うち174人(79%)が、学校医または養護教諭からの成長障害児童・生徒の紹介があったと答えています。その内訳は、低身長の1~9人の紹介が75名、10~19名の紹介が43名、20~29名の紹介が20名、100名以上の紹介も6名いました。肥満は、1~9人の紹介が89名、10~19人の紹介が26名、20~29人の紹介が14名、100人以上の紹介も1名いました。その他、思春期早発症(疑いも含む)277人、身長促進(過成長・成長率促進)159人、やせ70人など、多くの児童・生徒が地区委員に紹介されてきている実態が明らかになりました。このことは、文部科学省の「成長曲線による健康の評価」のプロジェクトに対し、成長科学協会の地区委員の先生方が、専門医として機能していることを示していると考えられます。

お知らせ

1. 2022年度『FGHR(Forum on Growth Hormone Research) 臨床研究助成』公募について

来年度(2022年度)の募集については、公募開始を2021年12月1日(水)にさせていただきます。

公募開始: 2021年12月1日(水)

締切: 2022年1月27日(木)

詳細は12月1日、ウェブサイトに掲載致します。

2. 2021年度 助成事業

下記団体および研究者に対して助成

1) 日本内分泌学会

第94回日本内分泌学会学術総会

(2021年4月22日~4月24日: WEB開催)における若手研究奨励賞(YIA賞)に対する助成

2) 日本内分泌学会

第39回内分泌代謝学サマーセミナー

(2021年7月8日~10日: 鴨川グランドホテル)に対する助成

3. 研究年報のウェブサイト掲載

2020年度の研究成果は「研究年報第44号2020」として12月に発刊を予定しております。

寄附ご芳名

ニュース124号以後、次の方からご寄附がありました。

貴重なご寄附、誠に有難うございました。

日本イーライリリー株式会社 様

JCRファーマ株式会社 様

サンド株式会社 様

株式会社東邦アーステック 様

(順不同)